

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	山形村立山形小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	10
児童数	4	9	8	14	9	11	0	55	

研究の概要

1. 研究主題

<p>意欲的に学習する子どもの育成を目指して 算数科における自力解決する力を高めるための指導の在り方の工夫を通してー</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> 全学年・算数 <p>算数科における数学的な考え方や既習の知識や考え方を関連付けて新しい課題を解決する力を育成するため。</p>

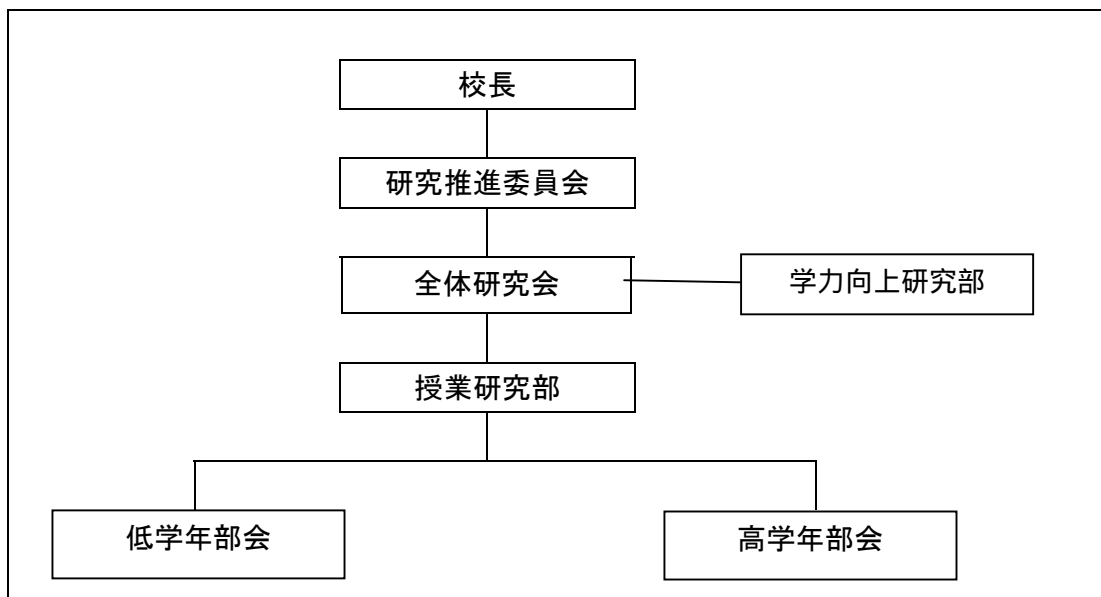
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 自力解決する力を高めるための指導の在り方 研究の見通し 算数科において、自力解決段階で次のような手立てを講じていくなれば、自力解決する力が養われ自分の考えをもち進んで学習する児童になり、意欲的に学習する児童が育つであろう。</p> <p>(1) 解決の見通しをもつ場面の工夫 (2) 自力解決場面での学習方法の工夫 (3) 教師の支援計画の工夫</p> <p>研究の内容・方法 研究仮説に基づく授業実践 実践記録による授業分析 児童理解のための意識調査、レディネステスト・事後テストの実施、分析</p>
--------	--

	<p>テーマ 自力解決する力を高めるための指導の在り方 研究の見通し</p>
--	--

平成 16 年 度	<p>算数科において、自力解決段階で次のような手立てを講じていくなれば、自力解決する力が養われ自分の考えをもち進んで学習する児童になり、意欲的に学習する児童が育つであろう。</p> <p>(1) 解決の見通しをもつ場面の工夫 (2) 自力解決場面での学習方法の工夫 (3) 教師の支援計画の工夫</p> <p>研究の内容・方法 研究仮説に基づく授業実践 実践記録による授業分析 児童理解のための意識調査、レディネステスト・事後テストの実施、分析</p>
--------------------	---

(3)研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究の成果

(1) TT 指導

ア 児童のアンケートを見ると、TT の授業がよいと答えた児童が87%、よくないと答えた児童が0%、よくも悪くもないと答えた児童が13%だった。また、昨年度と今年度のCRTの算数の関心・意欲・態度の領域を比較してみると、平均得点率が、86.1%から89.9%に上がっている。TT指導により、児童の算数の授業に対する意識が変化している。個別指導により、十分に理解できるまで学習に取り組むことができることや、授業での疑問やつまづきを随時解決できる状況により、意欲をもって取り組む姿が見られるようになった。

イ TT指導は、教師にとって、授業改善という大きな成果を上げている。個別指導

はもとより、習熟度別指導など、授業の新たなスタイルに取り組んでいる。

(2) 評価規準の設定と学習状況の把握

ア 評価規準を明確にすることにより、評価と指導が一体化させることができた。

少人数でも、学習目標に沿った評価を行うことができた。

イ 個々の児童の学習状況を把握することにより、児童の指導の重点を明らかにでき、有効な支援や指導を行うことができた。また、学習状況表はT2の個別指導においても有効である。

(3) 発展的学習や補充的学習

ア 補充的学習は、児童の学習状況や定着度に応じて、全体にあるいは個別に、授業やその他の活動で行った。いきいきタイムは、各担任が工夫して特に補充的学習に利用することが多い。

イ 計算博士の取組は、児童が意欲的に学習する動機付けや目標を達成した充実感をいだかせるのに有効である。補充的指導として、フィードバックしながら取り組んでいる。

2. 今後の課題

(1) 「数学的な考え方」の指導

CRTの結果から、算数への関心・意欲・態度が向上しているが、教師が意識して指導した「数学的な考え方」は、昨年度とほぼ変わらない得点率だった。授業の楽しさだけでは解決しない問題の改善に向け、研究を通して明らかにしていきたい。

(2) TT指導

TT指導は、教師間の連携や共通理解が不可欠であるが、TT加配教員は、週2日あるいは3日の勤務で、学習する単元全体にかかわれない状態にある。そのため、十分に連絡を取り合えない場合もあり、TT加配教員が十分に指導できる体制を模索している。

(3) 発展的学習や補充的学習

ア 児童の習熟段階に応じて、フィードバックして学習できるシステムを計画し、実施していく方向で研究する必要がある。

イ 基礎的な学力を付けることの指導が中心になり、発展的学習まで指導しきれなかった。

学力等把握のための学校としての取組

1 観点別到達度学力検査 (CRT)

目的 児童の学習状況を把握し、指導の在り方を工夫改善するため。

実施内容 本年度の学習内容

時期 12月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- | | |
|---|---|
| 1 | 学力向上フロンティア説明会
日時 平成15年4月28日
場所 山形小学校図書室
対象 山形小学校 PTA
目的 保護者に学力向上フロンティア事業の趣旨を説明し、理解を深める。 |
| 2 | 校内研究会
日時 平成15年7月24日
場所 山形小学校校長室
対象 保護者代表
目的 校内の研究の状況を保護者に説明し、理解を深める。 |
| 3 | 山形村教育委員会発行の研究集録「山形の教育を考える」に掲載予定。 |

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--|--|--|----|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input checked="" type="checkbox"/> 6学級以下 | <input type="checkbox"/> 7～12学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 13～18学級 | <input type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T.Tによる指導 | | |
| | 一部教科担任制 | その他 | | |
| 【研究教科】 | 国語 | 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | 理科 |
| | 生活 | 音楽 | <input type="checkbox"/> 図画工作 | 家庭 |
| | 体育 | その他 | | |
| | | | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |